



自立して社会に貢献できる生徒の育成

南中だより



福山市立駅家南中学校

2025 年（令和 7 年）

11 月 7 日（金）NO.8

英語を通して広がる世界！ 台湾との交流と英語弁論大会



本校の2年生は、英語を使ったコミュニケーション力の向上を目的に、台湾の青溪国中学校の生徒とオンラインで交流を行っています。先日、今年度第1回目のセッションが行われ、お互いに英語で自己紹介や質問をし合いました。「日本食で知っているものは何？」という質問に「Sushi」と、「日本のアニメは知ってる？」という質問に「BLUE LOCK」「Doraemon」などと元気に答えてもらいました。英語で気持ちが通じた喜びをジェスチャーで伝え合いながら、笑顔あふれる交流となりました。実際に英語で海外の人と直接コミュニケーションをしてみると、思うように話せなかったり、積極的になれなかったりしたことで、「もっと英語の授業を頑張りたい」とモチベーションが上がったようです。生徒たちは「次はもっと質問を考えておきたい」「写真や物を見せながら説明したい」など、次の交流に向けて意欲を高めていました。国を越えて英語でつながる体験を通して、生徒たちの視野や世界観が広がることを願っています。

また、高円宮杯第77回全日本中学校英語弁論大会広島県大会に、3年生の小早川太郎くんと西尾京悟くんが出場し、小早川くんが見事、東京で行われる中央大会への出場を決めました。

小早川くんは、先日の生徒集会で英語でのスピーチの一部を披露し、全校生徒でその健闘をお祝いしました。英語で思いを伝える姿に、他の生徒たちは大いに刺激を受け、自分も次の目標に向かって頑張ろうと気持ちを新たにしていました。



中国中学校駅伝競走大会に男女そろって出場！

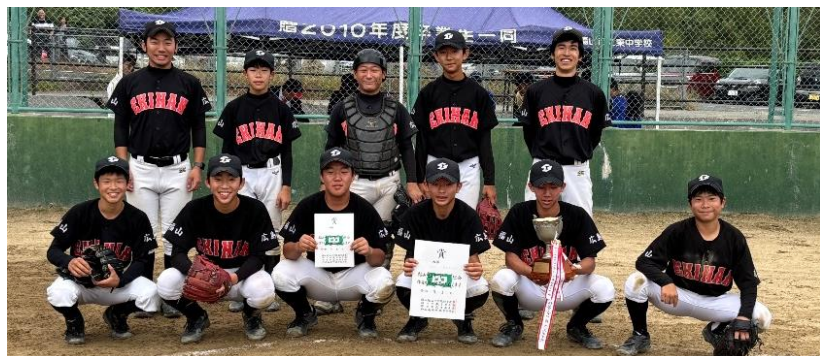
11月16日（土）、東広島運動公園陸上競技場で行われる 男子第86回・女子第35回中国中学校駅伝競走大会 に、本校陸上部の男子チーム・女子チームがそろって出場します。

この大会に出場するためには、各地区の予選を勝ち抜く必要があります。10月4日（土）に芦田川河川敷で行われた福山地区予選では、出場権をかけた熾烈なレースが展開されました。その中で、本校が男女ともに出場権を獲得したことは、本当に素晴らしい成果です。

大会に向けて、3年生は引退を先延ばしにし、日々の練習に励んでいます。中学校生活最後の大舞台で、これまで積み上げてきた努力を信じ、持てる力をすべて発揮して、悔いのない走りをしてきてください。全校で応援しています！



野球部「新人総体優勝」おめでとう！



先日行われた新人総合体育大会で、本校野球部が見事優勝しました。準決勝では府中学園と対戦し、打線が爆発。見事に打ち勝ち、決勝へと駒を進めました。決勝は、序盤に4点をリードされる苦しい展開でしたが、6回に同点に追いつき、7回（最終回）の表で3点を奪って勝ち越し！裏の守りでは満塁のピンチを迎えましたが、選手全員が声を掛け合い、集中力を切らさず守り抜き、見事に優勝を勝ち取りました。見ている人すべてが感動する、素晴らしい試合でした。まさに「全員でつかんだ優勝」です。本当におめでとうございます！

昨年の7月、コロナ禍で自粛していた朝練習を再開し、野球部は打力向上を目標に、工夫を重ねながら熱心に練習に取り組んできました。今大会の優勝は、その地道な努力の積み重ねが実を結んだ結果です。コツコツと基本を大切に練習を重ねる姿勢は、他の部活動にとっても大きな手本となりました。この優勝を自信にして、これからもさらに高みを目指して頑張ってください。

PTA 教育講演会で救急救命について学びました！



11月5日（火）に行われたPTA教育講演会では、福山地区消防組合北消防署駅家分署から救急隊員の方を講師にお迎えし、「生活の中で起こりうるケガや事故への応急対応」について学びました。

講演会では、のどに食べ物が詰まったときの対処法や、出血・骨折時の対応など、身近な場面で役立つ知識を詳しく教えていただきました。サランラップなどの家庭用品が、圧迫止血や添え木・三角巾の代用品になるなど、身近なものを活用した応急処置の工夫も紹介されました。心肺蘇生の実習では、訓練用の人形を使って心臓マッサージや人工呼吸を体験しました。救急隊員の方からは、「救急車が到着するまでの間に心肺蘇生や人工呼吸が行われているかどうかで、生存率は大きく変わる」とのお話がありました。実際の現場では対応が行われていないことも多く、救える命を救えなかった無念さを感じることもあるとのことでした。

講演会を通して、救急隊員の方の“いざというときに勇気をもって実践してほしい”というメッセージが強く印象に残りました。「自分しか救えない命と出会ったときは、ためらわずに心肺蘇生を行い、同時に119番通報をしてほしい。私たちは到着後、全力で引き継ぐ。その瞬間まで頑張してほしい」という言葉に、参加者一同深く感動しました。

すべての生徒が、将来自信を持って仕事や社会に向き合い、他者のために力を発揮できるようになる、そのような学びのある学校でありたいと、改めて感じました。